

「あいこう・ふなこ9条の会」ニュース

ずっと「戦争しない国」を続けよう

新年あけましておめでとございます。
一昨年暮れに閣議決定された安保3文書に沿って、昨年の通常国会では軍拡財源法や軍需産業支援法が成立し、「戦争国家づくり」が着々と進められています。日本を「戦争する国」にさせないために、ともに力を合わせましょう。本年もよろしくお願いいたします。

あいこう・ふなこ9条の会 事務局一同



9条を活かして平和に舵を切る年に

ロシアのウクライナ侵略、イスラエルのパレスチナ・ガザ地区攻撃が長期化の様相の中、私たちの安全を脅かす米国と中国の対立が大きくなっています。米国・中国ともに貿易の相手国であり、相互依存の関係を築いてきています。

ところが日本政府は22年12月に改訂した安保3文書で、米国の中国軍事戦略の一翼を担う立場で
① 敵基地攻撃能力の保有や基地の強靱化（弾薬庫の補充・整備）
② 日米同盟の強化、NATOや豪州・韓国との連携強化し軍事ブロック化
③ 武器援助など「同志国」の能力向上など大軍拡を決定し、急速にすすめています。米国と一体となって「中国包囲網」を形

成し、危機を増長させる方向で急速に推し進めています。日本と真逆の立場で動いているのが東南アジア諸国連合です。「武力による威嚇も行使も放棄」

「紛争の平和的手段による解決」を掲げた東南アジア友好協力条約に基づき、重層的な平和の枠組みを築き年間1500回もの会合を重ね、その枠組みを東南アジア域外にも広げようとしています。その理念は、特定の仮想敵国を想定して世界に分断をもたらず排除の軍事ブロックの論理とは真逆の「開放性・透明性・包摂性」です。

世界に戦争放棄を宣言した平和憲法を持つ日本が今こそ、その理念の先頭に立つべき時ではないでしょうか。

みちえ

新年を迎えて

2024年の幕開けです。地球の加速度的な灼熱化と「想定外」の戦争の勃発が、私達を待ち受けているように思えてなりません。

「平和国家」を標榜していた日本国は、平和憲法を踏みじり劇的に変貌を遂げています。タレント、芸人を動員し自衛隊保有の武器、訓練を披露しプロパガンダを拡大しています。私達は今こそ立ち止まり、人間力、想

像力を発揮して考えていく必要があります。

礼賛する武器、その銃弾、砲弾、ミサイルに、身体を撃ち抜かれ粉々に破壊される数多の人間がいることを。相手を尊重し寄り添うと言う人間性抜きに貫いた「国益」。人を殺戮（さつりく）した血塗られた手で、優しさに溢れる社会が造れるのだろうか！

新年を迎え、私はあらためて問うて行こうと思う。

まさお

税金は大軍拡よりの被災者支援に

元日の夕方、能登半島を中心に大地震が発生し、百数十人の方が亡くなられ、今も二百人近くの方が、行方不明です。被災された方々は、電気・水・ガスなどが寸断された中、寒さと食糧不足・トイレ不足など、大変厳しい状況の中にいます。

政府は全力をあげて、救援と復旧・復興に努めてほしい。税金は、大軍拡ではなく、国民の命と暮らしを支えるために使ってください。志賀（しか）原発が再稼働していたら大変な事になったかもしれない。地震大国に原発はいりません。 かずお

国連や安全保障理事会は無力か？

ロシアのウクライナ侵略やイスラエルのガザ侵攻などで、子供や女性など一般の市民が多数犠牲となっています。それを止める有効な手段が見いだせない状況で、国連や国連安全保障理事会（以後、安保理）への無力感が見受けられます。本当に国連や安保理は無力なのでしょうか？

超大国の無法を断罪、 包囲する方向へ

2022年2月のロシアによるウクライナ侵略の直後、安保理にロシアの侵略を非難する決議案が提案されましたが、常任理事国のロシアが拒否権を行使



したため否決されました。しかし、国連総会は緊急特別会合で、
○ロシア軍の即時無条件撤退を求める
○国際人道法の順守を求める

の2回の決議を、加盟国の7割を超える140カ国以上の賛成で採択しました。

また2023年のイスラエルのガザ侵攻に対して、国連総会は12月に緊急特別会合を開き、ガザ地区におけるイスラム組織ハマスとイスラエルの戦闘の「人道的な即時停戦」を求める決議案を、賛成多数で採択しました。

この様に、今は一握りの大国が世界を動かすのではなく、多数の非同盟・中立の国が国連憲章に基づく平和秩序の回復へ議論をリードする時代に来ていると言えるでしょう。これをさらに前進させるためには、国連が現状のままではいいとは思われません。安保理常任理事国の特権を見直し、国連総会により強い権限を与える方向での改革が必要だという意見も出ています。

リヒテンシュタイン（注）が提

起し採択された、常任理事国が拒否権を行使した場合に国連総会での説明を義務付ける総会決議は、改革方向の一つとみられています。

武力に拠らない 紛争の解決を

武力衝突に対して、国連の対応はまだ不十分ですが、一定の役割は果たしているといえるでしょう。武力衝突をやめさせる最も有効な手段は、各国が武力を放棄することです。夢物語と一笑に付されそうですが、各国の国民が自国の武装に反対すれば実現出来るのではないのでしょうか？

国連の無力を喧伝する前に、平和憲法を持つ国として、武器購入をやめ、紛争を軍事に拠らず話し合いで解決するように国際連合でも積極的な役割を果たすよう日本政府に要求したいと思います

市川隆雄

（注）スイスとオーストリアにはさまれた小豆島ぐらいの大きさの国

ガザ即時停戦を！

昨年暮れに、古居みずえさん2011年作「ガザ・サムニ家の子どもたち」というDVD上映会が行われました。古居さんは、ドキュメンタリー映像作家で、長年におたってパレスチナの人々取材してきました。この映画は、ガザが2009年にイスラエルから攻撃を受けた直後の子ども達の姿と言葉を映像におさめたものです。

親が殺されるのを目の前で見た子どもは、一生消える事はないでしょう。それでも、少しずつ力強く再生していく子ども達。イスラエルの戦車に踏み荒らされたオリーブ畑に、子どもたちは笑顔で新たな苗木を植えていきます。大人達の「子どもの心のケア」に取り組む姿にも心を打たれました。あれから14年経ち、あの子どもたちは、今も無事に生きています。どうか、今回のイスラエル侵攻でどうしているだろう、いたたまれない思いで観ました。

激しさを増すイスラエルによるガザ全域への攻撃、ガザ侵攻即時停止を強く訴えます。

山本幸子